

## RSウイルス母子免疫ワクチンの予防接種について

この予防接種は予防接種法に基づき、妊娠中の方がRSウイルス母子免疫ワクチンを接種して、赤ちゃんが免疫を得るために実施するものです。

必ず本紙をよく読んでから、委託医療機関で接種を受けてください。

※予防接種助成について：里帰りや治療などで京都府外の医療機関で接種することを希望されている方は、事前にご相談ください。

### 接種時の持ち物

- ・母子健康手帳
- ・予防接種予診票兼受診票
- ・マイナンバーカードまたは資格確認書

### 対象者

接種時点で、  
妊娠28週0日から36週6日までの妊婦

### 接種方法

妊娠ごとに1回 接種量：0.5ml



妊娠週数をご確認のうえ  
接種してください。

### 病気の概要と予防接種の効果

RSウイルスに感染することにより起きる呼吸器の感染症です。

新生児や乳幼児においてはウイルス性の風邪の主な原因のひとつであり、ほぼ全ての新生児・乳幼児が2歳までに感染すると言われています。また、年齢問わず何度も感染するため、赤ちゃんから高齢者まで、幅広い年齢層で感染するといわれています。

2～8日の潜伏期間ののち、発熱、鼻水、咳などの症状が数日続きます。初めて感染した乳幼児の約70%は軽傷で数日のうちに快方に向かいますが、約30%では咳が悪化し、喘鳴（ゼーゼーと呼吸しにくくなること）や呼吸困難、さらに細気管支炎の症状がみられるようになります。

RSウイルス感染症に対する治療は、症状に応じた対症療法が主な治療です。呼吸困難が強いなどの重症の場合は入院し、酸素投与や点滴、人工呼吸器が必要な場合もあります。

#### （効果）

このワクチンを妊婦が接種することにより、母体内で作られた抗体が胎盤を通じて胎児に移行し、生まれた乳児が出生時から病原体に対する予防効果を得ることができます。

このワクチンでは、生後6か月までの有効性が検証されています。接種後14日以内に出生した乳児における有効性は確立していません。接種後14日以内に出生した乳児においては、胎児への抗体の移行が十分でない可能性があります。

## 副反応

予防接種は、重篤な病気の発生や流行の阻止に大きな成果をあげていますが、ごくまれに下記のような副反応があります。

- (1) 非常にまれではありますが、重大な副反応  
ショック、アナフィラキシー様症状（呼吸困難・血管浮腫等）
- (2) その他
  - ① 全身症状：頭痛・筋肉痛・発疹・蕁麻疹を認めることがあります。
  - ② 局所症状：接種部位の痛み・紅斑・腫脹等がみられることがあります。

## 注意点

- (1) 予防接種は健康な人が元気な時に接種を受け、その病原体の感染を予防するものです。  
体調の良い時に受けることが原則です。
- (2) 予防接種を受けることができない人
  - ① 当該予防接種（RSウイルス）に相当する予防接種を受けたことのある者
  - ② 明らかに発熱（通常37.5度以上）している人
  - ③ 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
  - ④ 予防接種等によりひどいアレルギー反応を起こしたことのある人
  - ⑤ その他、医師が不適切な状態と判断した場合
- (3) 予防接種を受けるに際し、主治医とよく相談しなくてはならない人
  - ① 心臓病・腎臓病・肝臓病や血液、その他慢性の病気で治療を受けている人
  - ② 過去の予防接種2日以内に発熱・発疹等のアレルギーを思わせる異常がみられた人
  - ③ 過去にけいれんをおこしたことがある人
  - ④ 免疫不全があると指摘されたことがある、及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
  - ⑤ ワクチンの成分に対して、アレルギーをおこすおそれのある人
  - ⑥ 血小板が少ない、あるいは出血しやすく治療を受けている人
  - ⑦ 妊娠高血圧症候群の発症リスクが高いと医師に判断された方や、今までに妊娠高血圧症候群と診断された方
- (4) 予防接種を受けた後の一般的注意事項
  - ① 接種後30分間は、急な副反応が起こることがまれにありますので、医療機関で様子を見るか、医師とすぐ連絡をとれるようにしておきましょう。
  - ② 副反応の多くは1週間以内に出現しますので、この間は体調に十分注意しましょう。
  - ③ 入浴は差し支えありませんが、注射部位を強くこすことはやめましょう。
  - ④ 接種当日はいつもどおりの生活をしてかまいませんが、激しい活動は避けましょう。